



リノーク

RINORK

AI業務改善

スターター診断レポート

株式会社ソラビジョン（架空） 御中

2026年7月29日

リノーク（代表：池田 征弘） / ikeda@rinork.jp / <https://rinork.jp>

本レポートはAI業務改善スターター診断の成果物です。記載の金額はヒアリング時点の概算であり、実測値や削減の保証ではありません。

いま、毎月

36.7 万円

が定型作業に使われています

年換算で **約 440.4 万円** 相当

ヒアリングでお伺いした「誰が・月何回・1回何分」に標準単価を掛けた概算です。

この金額が「AI化で全額戻る」という意味ではありません。

いま定型作業にどれだけの人件費が使われているか、その現在地を見える化したものです。

これはサンプルです。株式会社ソラビジョンは実在しません。診断レポートの構成と粒度をお伝えするために、映像制作会社（社員8名規模）を想定して作成した**架空の事例**です。実在する企業の診断内容ではありません。

診断実施: リノーク（代表：池田 征弘）

事前アンケート: 2026年7月13日

ヒアリング（90分）: 2026年7月22日（業務棚卸し・AI化候補の仕分け）

報告MTG: 2026年7月29日

連絡先: ikeda@rinork.jp / <https://rinork.jp>

ご予約: <https://calendar.app.google/V2xAWhuQbr6PDzDP8>

このレポートは**AI業務改善スターター診断（通常10万円／初回モニター5万円）**の成果物です。

事前アンケート+90分ヒアリングをもとに業務を棚卸しし、**いま毎月いくら損しているか（概算）**を見える化したうえで、**AI化すべき業務と今はAI化しない方がよい業務を仕分けし、6ヶ月ロードマップにまとめました。**

ゴールは「**株式会社ソラビジョン様が、何からAI化すべきかを自分で判断できる状態**」にすること。

いきなり全業務を自動化するものではなく、**AI活用の優先順位を決めるための地図**です。

0. エグゼクティブサマリー

現在地

- 撮影・編集そのものではなく、**その周辺（構成・進行連絡・素材整理）**に時間が集まっています
- 月あたり **約367,000円**（年換算 約4,404,000円）が、定型的な文章仕事と連絡・整理の業務に使われている計算になります
- 制作本数を増やせない要因は編集の速度ではなく、**編集に入る前と、納品したあとの工程**にあります

最初に手をつけるべき1本

文字起こしから字幕・テロップ原稿の下書き（月90,000円・編集担当で月36時間）。

インタビュー系の案件で毎回発生し、作業内容が完全に定型です。**入力（撮影素材）と出力（字幕原稿）の対応が最も明確**で、品質の判断基準も社内で共有できています。

この診断で分かったこと

御社の課題は「編集が遅い」ことではなく、「**編集以外の時間が制作本数の上限を決めている**」ことです。制作の中核である演出・編集には触れず、その前後だけを軽くする方針を推奨します。

1. 業務棚卸しの結果

1.1 毎月くりかえす業務（タスク分解）

#	業務	担当	月の回数	1回あたり	月合計
1	構成案・台本のたたき台作成	ディレクター	10回	150分	25.0h
2	文字起こし→字幕・テロップ原稿の下書き	編集担当	24回	90分	36.0h
3	撮影スケジュールの調整連絡	ディレクター	26回	30分	13.0h
4	進行状況の共有・修正指示のやり取り	ディレクター	60回	15分	15.0h
5	提案書・見積のドラフト作成	ディレクター	8回	120分	16.0h
6	撮影素材の整理とタグ付け	編集担当	24回	40分	16.0h
7	請求・入金確認まわりの事務	代表	1回	300分	5.0h

1.2 AI活用の現状

- 編集ソフトの自動文字起こし機能は使用しているが、そこから先の整形は手作業
- 生成AIは代表が個人的に試している段階で、業務には組み込まれていない
- 素材管理は共有ドライブのフォルダ運用。過去素材の再利用がほぼできていない

1.3 主な課題

- 構成案の作成がディレクター1名に集中し、その人の稼働が制作本数の上限になっている
- 撮影日程の調整が電話・チャット・メールに分散し、確定までの往復が多い
- 修正指示が口頭とチャットに混在し、対応漏れの確認に時間がかかる
- 過去に撮影した素材がどこにあるか分からず、同じような画を撮り直している

2. 損失額の試算 ★この診断の中心

2.1 計算の前提（標準単価）

人件費は、給与だけでなく社会保険料・賞与等を含む「実効人件費」で考えます。本診断では以下の標準単価を仮置きしています（実際の給与体系が分かればそれに合わせて再計算できます）。

担当の区分	標準単価（時給換算・目安）
編集担当	2,500円
ディレクター	3,000円
代表	6,000円

代表の単価は「その時間で本来生み出せる売上（新規商談・演出の意思決定）」の目安です。御社の平均受注単価が判明すれば、そこから逆算した値に差し替えます。

2.2 工数の金額換算

#	業務	担当	月合計時間	単価	月あたりの損失（概算）
1	構成案・台本のたたき台作成	ディレクター	25.0h	3,000円	75,000円
2	文字起こし→字幕・テロップ原稿	編集担当	36.0h	2,500円	90,000円
3	撮影スケジュールの調整連絡	ディレクター	13.0h	3,000円	39,000円
4	進行状況の共有・修正指示	ディレクター	15.0h	3,000円	45,000円
5	提案書・見積のドラフト作成	ディレクター	16.0h	3,000円	48,000円
6	撮影素材の整理とタグ付け	編集担当	16.0h	2,500円	40,000円
7	請求・入金確認まわりの事務	代表	5.0h	6,000円	30,000円
				合計	月 約367,000円

年換算では**約4,404,000円**に相当します。

※ この金額は「AI化で全額戻る」という意味ではありません。「定型作業に、これだけの人件費が毎月使われている」という現在地の見える化です。

2.3 金額にしにくい損失（機会損失）

数字にしにくいものの、実際には上の工数換算より大きいことが多い損失です。

- 構成案がディレクター1名に依存しているため、**繁忙期は月1～2件の引き合いを見送っている**
- 過去素材が探せず再撮影が発生しており、撮影日と機材費が余分にかかっている
- 修正指示の管理が属人化しており、**確認の往復が納品を平均2～3日遅らせている**
- 代表が事務作業に時間を取られ、既存クライアントへの継続提案（シリーズ化・運用支援）に動けていない

3. AI化する業務・しない業務の仕分け

「AIに任せられるか」ではなく、「**任せて安全か・効果が出るか**」で仕分けます。

3.1 AI化する業務（候補リスト）

#	業務	AI化の方向	人に残すこと
1	文字起こし→字幕・テロップ 原稿	素材から原稿の下書きまで自動生成。表記ルールを反映	表現の調整・尺に合わせた最終判断
2	構成案・台本のたたき台	打合せ記録と過去実績から初稿を自動生成	演出方針の決定・構成の最終判断
3	撮影スケジュールの調整連絡	候補日の提示と確定連絡の下書きを自動化	現場条件の可否判断
4	進行状況の共有・修正指示	修正指示を項目化し、対応状況を自動で一覧化	対応可否・追加費用の判断
5	提案書・見積のドラフト	打合せ記録から初稿を自動生成	提案方針・金額の最終判断
6	撮影素材の整理とタグ付け	内容から自動でタグ付けし、検索できる状態に	タグ体系の設計・公開可否の判断

3.2 今はAI化しない方がよい業務

#	業務	理由
1	映像の最終品質判断	判断基準が明文化できず、御社の価値そのものにあたる領域のため
2	権利処理（音源・素材・出演者）の判断	誤りが法的責任に直結し、最終責任を負えないため
3	演出の意思決定	クライアントの意図と現場の状況を踏まえた判断が必要で、データに現れない情報が多いため

4. 優先順位マップ（効果 × 始めやすさ）

5軸のスコアリングではなく、**効果**（削減できる工数と金額）と**始めやすさ**（データの整備度・判断の明確さ）の2軸で見ます。

業務	効果	始めやすさ	判定
文字起こし→字幕・テロップ原稿	高	高	最優先
構成案・台本のたたき台	高	中	次点
提案書・見積のドラフト	中	高	次点
進行状況の共有・修正指示	中	中	3ヶ月目以降
撮影スケジュールの調整連絡	中	中	3ヶ月目以降
撮影素材の整理とタグ付け	中	低	4ヶ月目以降
請求・入金確認	低	低	今回は対象外

「構成案」は金額が2番目に大きい（75,000円）ものの、**演出の方針と切り離しにくい**ため、まず字幕原稿で仕組みと精度を確かめてから着手する順序を推奨します。

「素材のタグ付け」は効果が見込めますが、**タグ体系の設計を先に決める必要がある**ため後半に置いています。

5. 処方箋: 最優先の1本を具体化 ★

対象業務: 文字起こしから字幕・テロップ原稿の下書き（月36時間・90,000円）

5.1 いまの流れ（手動）

1. 編集ソフトの自動文字起こしを実行
2. 誤変換・言い直し・フィラー（「えー」「あの」）を手作業で除去
3. 話し言葉を、読める書き言葉に整える
4. 表記ルール（英数字・敬称・固有名詞）に合わせて統一
5. 尺に合わせて改行位置と分割を調整

1本あたり約90分。うち60分は2～4の「整形」に使われています。

5.2 自動化・効率化したあとの流れ

1. 撮影素材を所定の場所に置く
2. 連携ツールが文字起こしから整形までを自動で行い、表記ルールを反映した原稿を出力
3. 固有名詞や専門用語は、案件ごとの辞書を参照して自動で統一
4. 編集担当が表現と尺を調整

人がやるのは4だけになります。1本あたり90分 → 30分程度が目安です。

ツールの構成は業務に合わせて設計します。ここでは「どのデータがどこへ自動で渡るか」だけを示しています。

5.3 導入ステップと目安

ステップ	内容	目安
1	過去の納品原稿20本から表記ルールを抽出・明文化	2週間
2	文字起こし→整形の流れを構築	2週間
3	案件ごとの用語辞書の仕組みを追加・試用	2週間
4	編集担当2名で実案件に適用し、調整	4週間

5.4 注意点

- 表記ルールの明文化は御社側で判断していただく必要があります（ここが最も手間のかかる工程です）
- 尺に合わせた分割は自動化しません。映像のリズムに依存するため、担当者の調整を前提とします
- 未公開の撮影素材を扱うため、入力内容が学習に使われない構成を前提とします。出演者情報を含む場合はマスキングしたうえで処理します

6. 6ヶ月ロードマップ

前半3ヶ月は月単位で具体的に、後半3ヶ月は方向性として示します。後半は前半の結果を見て一緒に更新する「生きた地図」です。

前半（1～3ヶ月目・具体）

月	取り組み	ゴール
1ヶ月目	表記ルールの明文化／文字起こし→整形の構築	原稿の下書きが自動で出る
2ヶ月目	用語辞書の仕組みを追加し、実案件で試用	編集担当1名が実案件で使える
3ヶ月目	編集担当2名へ展開／構成案のたたき台に着手	字幕原稿の作成時間が3分の1になる

後半（4～6ヶ月目・方向）

- 構成案・台本のたたき台へ同じ仕組みを展開する
- 提案書ドラフトの自動生成に着手する
- 素材のタグ付けは、タグ体系の設計から着手する
- 3ヶ月目の実測を見て、優先順位そのものを組み替える

7. 次のステップ

この診断で「何から手をつけるか」は決まりました。ここから先の進め方は2つあります。**診断だけで終わっていただいても構いません。** レポートとロードマップはそのままお使いいただけます。

ルートA: 構築までお任せいただく場合（実装＋運用保守）

- **実装（初期構築）**：30～60万円。ワークフローの本数と連携するシステム数から算定します
- **運用保守**：ライト5万／スタンダード10万／プロ18万（月額）。監視・障害対応・動作維持の修正が中心です
- 最低3ヶ月、以降1ヶ月ごとの自動更新。解約は1ヶ月前の書面通知

ルートB: 構築の有無に関わらず、AI活用を進めたい場合（導入支援）

- **スタンダード**：15万円（月額）。活用設計・手順書・研修・定例
- **プロ**：30万円（月額）。複数テーマ・研修頻度増・規程整備・経営報告
- 運用保守と併用の場合はセット割が適用されます

診断費の充当について

本診断の費用は、**1ヶ月以内にご契約いただいた場合、初月費用に充当いたします。**

付録: 前提と免責

- **損失額の計算根拠**：ヒアリングでお伺いした「誰が・月何回・1回何分」× 標準単価（セクション2.1）。標準単価は、給与に社会保険料・賞与等を加えた実効人件費（額面給与の約1.3～1.5倍）の時給換算目安です。代表は「その時間で生み出せる売上」の目安を用いています
- 記載の金額・手応えはすべて**ヒアリング時点の概算**であり、実測値や削減の保証ではありません。実際にAI化を進めながら、現場の感覚と実測に合わせて見直します
- 断定的な「年間〇〇時間削減できます」という約束はしません。その代わり、実行の各段階で実測を一緒に確認します
- **本サンプルは架空の企業を想定して作成したものです。** 実在の企業・団体とは関係ありません

本レポートはAI業務改善スターター診断（通常10万円／初回モニター5万円）の成果物です。